

相模女大学芸 ○永井 房子  
立正女大家政 大沢由起子

1. 直線構成による和服は着つけいかんで比較的幅広い着用者層をもつ特徴がある。この事は又着くずれという問題をかかえた和服の欠点でもある。より身体になじんだ着やすいきものを考えるとき着こなしに影響があると思われる衿をとりあげ衿肩明位置・くりこし分量等種々の方法につき検討した。

2. 衿肩明きを(A)肩山にあける(B)肩山より後身頃に2 cmずらしてあける(C)(A)の衿つけ線にそって切りこむ以上3方法に更に衿つけ代を1, 2, 3 cmと変化させた浴衣地8種類の実物製作により比較した。測定個所は(1)背中心の首と衿の離れ寸法・(2)背中心の衿の開角度(3)肩山の衿の開角度(4)肩山の衿と首の離れ寸法(5)背中心の衿つけ位置以上である。

3. (A)について (1)(2)(3)(4)(5)の測定値いずれも小で衿が首にぴったりつく。衿が立つ状態なので比較的素材のかたいスポーティに着こなす若い人の浴衣などに望ましいと思われる。(B)について、くりこし1 cmの製作物は(A)に比べて首から離れているが衿肩まわりがだぶつく。くりこし2・3 cmの製作物は(1)(2)(3)(4)(5)の測定値いずれも(A)より大即ち衿がねる状態なので素材のやわらかいゆったりした着こなしを望むきものによいと思われる。(C)について、くりこし3 cmの製作物は(1)(2)(3)(4)の測定値いずれも(A)の3 cm, (B)の1 cmの中間で、くりこし4 cmの製作物は(B)に近い値である。首にそった状態の着こなしを好む人に望ましい衿と思われる